

# レセプト・健康情報等を活用したデータヘルスの推進事業 成果連動型民間委託方式による保健事業

事業名	柔整頻回受診者に対するICTソリューションを活用した療養費適正化効果の検証		
健保組合と民間委託事業者等の役割	【申請主体】 コニカミノルタ健康保険組合	【民間事業者】 株式会社バックテック	【第三者機関】 上松弘典 (M.D. Ph.D)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常務理事による本事業の設計と事業評価</li> <li>・対象者の抽出と告知</li> <li>・他健保への広報活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔健康相談サービスの提供</li> <li>・運営事務局</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロジックモデルの設計</li> <li>・支払条件の設計</li> <li>・事業成果の解析-評価</li> </ul>
本事業の目的	<p>①肩こり・腰痛等に対するICTを利用した遠隔健康相談による「療養費適正化」のPFSによる保健事業モデルを確立すること。</p> <p>②PFSによる保健事業モデルのポイント及び手順の整理を行い、他健保・他領域に横展開ができる報告書を作成すること。</p>		

## 事業実施の流れ



### 頻回受診者のデータ抽出

・健康保険組合の基幹システムより、直近6ヶ月の療養費データを用いて、柔道整復師に月3回以上受診している者を抽出する。

### 募集・ランダム化

・抽出された対象者にWEBでの募集フォームをチラシとメールにて送付し、保健事業対象者を募集。  
・RCTモデルでの検証のため、ランダム化を実施する。

### 保健事業実施（3ヶ月）

【介入群への介入】  
 ・医療専門職とのオンライン面談とチャット相談  
 ・症状に合わせた運動コンテンツ  
 ・心理要因に対する認知行動療法  
 【対照群への介入】  
 ・健康記事コンテンツの配信

### 効果判定・報告書作成

・アプリ内で取得した利用前後の成果指標データをもとに、PFSによる保健事業としての効果検証を実施する。  
 ・PFSによる保健事業モデルのポイント及び手順の整理を行い、報告書をまとめる。

## 課題

### ① 療養費が適正化されていない



保険適用での柔道整復師への頻回受診・長期受診・多部位受診等により、健保財政が圧迫されている。

### ② コロナ禍で増加する肩こり・腰痛

有訴率  
20%増加

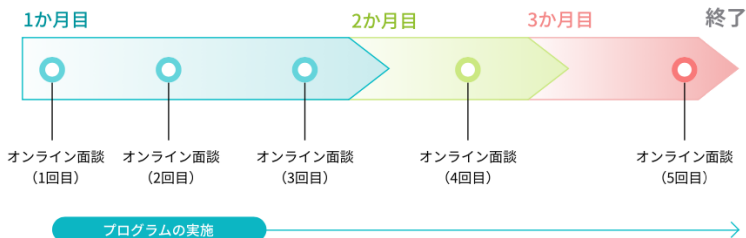
新型コロナ流行前      新型コロナ流行後

(株式会社バックテック及び産業医科大学の調査結果)

新型コロナの流行が長期化する中で、症状に悩む加入者が増え、今後の健保財政の圧迫につながる事が想定される。

## 介入

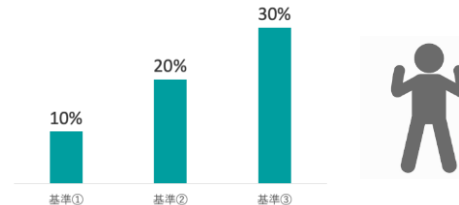
- 医療専門職とのオンライン面談
  - 3ヶ月で5回の面談
  - 症状に最適化されたプログラム立案
  - 認知行動療法による心理面のサポート機能
- Webアプリの利用
  - 症状に最適化されたエクササイズ動画の提供
  - ライフスタイルに合わせたリマインド機能
  - チャット相談機能 (24時間365日)



## 成果指標

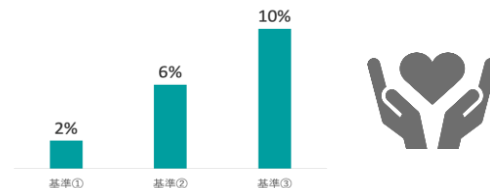
### ★主症状の程度が緩和した者の割合

【指標の定義】  
Visual Analog Scale (VAS) がMinimal Clinically Important change (MCIC) である20mm以上の改善が得られた利用者の割合と定義



### ★うつリスクが低減した者の割合

【指標の定義】  
うつ対策推進方策マニュアル調査票でカットオフ2点以上となった者を「うつの可能性あり」と定義



### ★運動習慣が向上した者の割合

【指標の定義】  
直近1ヶ月において、ストレッチや筋トレを含む運動の頻度で「全く運動習慣がない」者の減少割合を「運動習慣が向上した者の割合」と定義

